

# 「健康と環境が守れない」無理な開発は住民の願いに逆行

## 大規模風車32基の建設計画

鳥取市に外国資本の日本法人「日 本風力エネルギー株式会社」による大規模・集中化を図った風力発電計画があります。高さ約150m、1基4500kw、日本国内では前例のない大型風車32基を設置する大規模な計画です。

大開発による環境破壊、住民の健康・安全が懸念され、住民の願いと相いれず、地域発展に逆行するものであり、日本共産党は、断じて容認できません。

## 再生可能エネルギーは健全な発展を

日本共産党は、再生可能エネルギーの導入・普及は、温暖化に起因する豪雨対策などのためにも喫緊の課題であり、一層の推進が求められていると考えています。

しかし、規制の弱い日本では、きちんとしたルールや規制が未整備のため利益追求を優先した乱開発が起き、住民の健康や環境保全にかかわる問題を引き起こしています。本計画でも使われている環境省の「風力発電施設から発生する騒音に関する指針」は、そもそも、1基当たり出力2000kwの風車を想定しており、指針の見直しが必要です。そして、住民の安全が守れない計画は、やめさせるべきです。

## 知事意見にも住民にも、不誠実な対応

平井知事は、この事業計画の環境影響評価方法書に対して「事業の大幅な縮小や廃止も含めて抜本的な見直しを行う必要がある」「地権者のみならず相当範囲の地域住民に影響が及ぶ問題」として、2年前から厳しく指摘しています。

しかし、事業主の「日本風力エネルギー株式会社」は、計画段階であるにもかかわらず、計画を「受け入れる」「受け入れない」を地権者に迫り、住民の間に不信感をつくっています。このようなやり方は許されません。

## 事業者は「問題ない」というが、 周辺は苦情が噴出

風車の大規模・集中化の本計画では、周辺への騒音、低周波、シャドーフリッカー等、生活への影響が心配されます。また、急傾斜地の山間部稜線沿いに建設されれば、土砂災害の危険が高まります。

北栄町、琴浦町、大山町の風車は高さ約100mですが、周辺の住民から苦情が出ています。「風車の風切り音が、ひどい」「美しい夕日なのに、風車の影が頭の上から落ちてくる」「冬には風車の羽から氷塊が飛んでくる」などの声があります。今度の計画は一・五倍の大きさとなり影響が心配されます。

## 住民運動が無理な開発を撤回へ

明治地区では、小学校が、予定地の1km圏内に入ることから住民から反対運動が起こっています。

山形県鶴岡市の出羽三山地域に大型風車40基の建設が予定されていました。「風力発電計画配慮書」の縦覧から約一か月で住民の反対運動が一気に広がり、県知事、鶴岡市長が「日本遺産への影響に重大な懸念がある」と白紙撤回を要求し、計画が撤回されました。

住民が連帯して声を上げ、地元自治体が反対すれば、計画を止めることができます。

**大規模風力発電を考える学習会**  
**11月15日(日)14:00~16:00**  
**さざんか会館5F 鳥取市富安2丁目**  
**講師 和田 武 さん**  
 和歌山大学客員教授 日本環境学会元会長  
 経済産業省「調達価格等算定委員会」元委員

